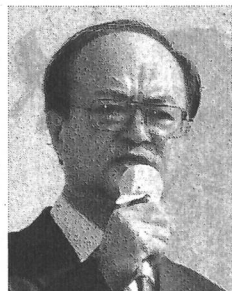


新しい大阪へ

橋下「維新」政治

大阪市立住吉市民病院は、140床に増床して小児・周産期専門の病院として現地で建て替えることが決まっていました。その着工前に橋下徹大阪市長が誕生しました。

署名が7万人分
橋下市長は就任するや否や、直線距離で2キロしか離れていないところに府立病院があるから二重行政のムダだ」ということを一方的に押しつけ、住吉市民病院を府立急性期・総合医療センターに統廃合しました。



新病院の建築を待ち焦がれていた区民は怒り、住吉市民病院の存続を求める署名7万人分を集めました。7万人というのは、住之江区、西成区の成人のおよそ半数にあたる数です。

橋下市長は、この数の多さに屈し、住吉市民病院跡地に市民病院と同じ医療レベルの民間病院を誘致する

住之江区医師会会長 松嶋 三夫さん

と約束しました。民間病院は2回公募されましたが、いまや「絶滅危惧種」の産科医・小児科医の確保ができずに、一度手を挙げた病院は辞退してしまいました。

今回出てきた病院は、産科と小児科の臨床経験が全くありません。大学のバックアップもありません。救急はしません。産科・小児科の標ぼうは10年で時効になります。10年たてば産科も小児科もやめていいという病院です。さらに質が悪いのは、現在もインターネットで小児科医を募集している点です。こんなところ

で命をかけたお産ができるでしょうか。

南部医療圏の病床再編計画に関する委員会がありま

す。あまりに低レベルな病院です。ので、この委員会

で、南部医療圏を構成する西成、住之江、住吉、東住吉、平野、阿倍野各区の医師会が全て、この病院の誘致反対を確認しました。

橋下市長は、二つ病院があるのは「二重行政」でムダだと乱暴に言いますが、

もともと、住吉市民病院は2次救急、府立病院は3次救急を担う、共存共栄する病院でした。

経済行き詰まり

小児科・産婦人科の民間病院がありました。みんな閉じてしまいました。最後に残ったのが住吉市民病院と府立病院です。それを無理やり合併すれば、小児科の救急ベッドが3分の2に減少してしまいます。これではインフルエンザの繁忙期に、小児科救急ベッドがすぐに満床になり、救急車がたらい回しに遭うことになってしまいます。

大阪維新の経済政策で大阪の経済は行き詰まっています。いま、大阪府に必要なのは栗原貴子さんであり、大阪市に必要なのは柳本顕さんです。住吉市民病院の現地建て替えには、柳本さんの市長当選が絶対に必要です。ぜひこの2人をよろしくお願いいたします。

(24日、大阪市住之江区での街頭演説で)

住吉市民病院 現地建て替えを